

アノテーションに関する考え方（案）

厚生労働省 大臣官房 厚生科学課

アノテーションにおける課題と考え方（案）

課題

- 専門性の高いアノテーションは、現状、専門医が行っているが、作業に当たって、作業量が膨大になることや、質をどの程度まで確保すべきか明確ではないことが課題となっている。
- 各学会においては、アノテーション補助ツールの開発や、課題解決に向けたWG立ち上げ等、個別に対応している。

いただいたご意見より抜粋

- 開発するAIによってアノテーションの仕方や粒度が異なる。（Ex.病名のみ、細胞単位のマーキングetc.）
- AI開発が進むと共にアノテーション内容が変化する。（Ex. 病名のみ → 病態情報etc.）

各学会共通の課題

- ①アノテーションの質の担保
- ②継続的な人材の育成

考え方

- 診療科間で共通に入力する情報の内容を統一することや、各学会の専門領域のアノテーションについて、一定の質を担保するためのガイドライン等の作成を検討してはどうか。
- 継続的に質の高いアノテーションを行うための人材の育成のため、持続可能な取組みを検討してはどうか。
- 当初から汎用性の高いアノテーションを実施するのは、情報量が膨大になり現実的ではないことから、目的に応じてアノテーションを付けるような取組みを検討してはどうか。

イメージ図

※様々なパターンを想定して図を作成

